3.　父性母性に関する学生の意識調査

(2)　男女の役割分担との関係

嘱託研究員　窪　　龍子（和泉短期大学）
研究第2部　斉藤幸子
特別研究員　宮崎　　叶

Ⅰ　研究目的及び調査概要は(1)生育歴との関係に示したので省略する。

Ⅱ　結果及び考察

第2報として調査内容のうち ③男女の役割分担に対する意識 ④自分の性の受け入れ ⑤父親的行動，母親的行動に対する意識　の分析結果を述べる。

(1)　父親の行動・母親の行動に対する男女の意識の違い

表1に示したように，父親の行動について男女の意識の違いは，「父親はいざという時に頼りになればよい」「父親は家計を支えることが育児に参加することだ」「父親が仕事で忙しく，日頃子どもの世話や家事ができないのはやむをえない」という意見にみられた。これらはいずれも，従来から父親のあり方として是認されてきたことであるが，男子に賛成者が多く，女子に反対者が多いのである。女子は父親にもっと育児に参加することを求める傾向が強いと言える。このことは「子どもと父親との日常の接触は幼児期から必要だ」という意見にも現れている。この意見の賛成者は男女とも多いのであるが，反対者の男子が3.2％に対し，女子が0.8％と少ないからである。

母親の行動について男女の意識の違いが現れているのは，「母親はいざという時に頼りになればよい」「母親は家計を支えることが育児に参加することだ」「母親が仕事で忙しく，日頃子どもの世話や家事ができないのはやむをえない」という意見である。これらは従来，父親的行動とみなされ，母親的行動とは考えられて来なかったものであるが，これらに反対しているのは女子の方が多い。つまり女子は，母親の行動に対して従来の考え方を肯定している者が多いということである。

以上をまとめてみると，女子学生は母親には従来からの母親的行動を是認し，父親の行動には母親的要素が加わるように望んでおり，男子学生も従来からの父親的行動を是認し，母親の行動には父親的要素が加わるよう望んでいるということである。結局，男女ともお互いに，自分の性別が持つ役割は変えず，相手の行動に変化を求めているということになる。

なお，「子どもを一人前にするには父親（母親）のしつけや導きが必要だ」「乳幼児期には父親（母親）の都合より子どもの都合を優先させるべきだ」および「子どもと母親との接触は，乳幼児期から必要だ」という意見の賛否には男女差はみられなかった。

(2)　男女の役割分担に対する男女の意識の違い

表2に示したように，自分の性別に満足している者は，男女とも大多数を占めるが，不満足とする者は女子で11.9％，男子で2.8％と差がある。

「母親は専業主婦が望ましい」「女性の天職は子どもを産むことである」というものは，男女とも大多数を占め，男女差はない。また「父親にも産休や育児休暇があって当然だ」という意見も，賛成者が男女とも過半数を占め男女差はない。

「男女の役割分担は従来どおり，男は外で仕事，女は内で家事がよい」については，男子は過半数が賛成し，女子は過半数が反対している。さらに「母親が働き続けるために育児休暇や保育施設などがもっと整備される必要がある」「男女雇用機会均等法は実効を持つようになるべきだ」「日本ではフェミニズム運動がさらに推進されるべきだ」という意見に対して，男女とも賛成者は過半数を占めるが，女子の賛成者の方が男子のそれより多く，有意差がみられた。そして「科学が進歩して男もお産ができるようになるとよい」という意見については，賛成者は男子では2.7％とごくわずかであるが，女子は15％を占めた。

以上のことから，女子学生の男女の役割分担に対する考え方は，母親は専業主婦が望ましく，女性の天職は子どもを産むことだと思うものの，女性が従来どおり家事だけに専念するのは反対で，社会進出も願っており，そ

のために世の中の意識の変革や，男性の積極的な育児への参加を求めていることがわかる。それに対して男子学生は，母親は専業主婦が望ましく，女性の天職は子どもを産むことであり，男女の役割分担は従来どおりがよいとしている。その一方で，女性の社会進出を可能にするために，世の中の意識が変わった方がよいとする者も過半数を占める。

(3) 男女の役割分担と他の意見との関係

表3に示したように，統計上の有意差はあっても，従来どおりの男女の役割分担をよしとする群と，よしとしない群の間に際立った意見の差はみられない。

「母親は専業主婦が望ましい」「女性の天職は子どもを産むことである」「自分の血をひいた子どもがほしい」という意見に対しては，両群の男女とも賛成者が多い。ま

表1　父親の行動・母親の行動に対する男女別意識

N（%）

		男　子（1234名）		女　子（1072名）	
		賛　成	反　対	賛　成	反　対
父親の行動	子どもに対してしつけや導きが必要	1190（96.4）	42（3.4）	1039（96.9）	25（2.3）
	子どもとの接触は乳児期から必要 ***	1189（96.4）	40（3.2）	1053（98.2）	9（0.8）
	いざという時頼りになればよい ***	752（60.9）	475（38.5）	359（33.5）	692（64.6）
	乳幼児期には子どもの都合を優先	752（60.9）	447（36.2）	643（60.0）	369（34.4）
	家計を支えることで育児に参加 ***	693（56.2）	531（43.0）	439（41.0）	610（56.9）
	仕事が育児や家事より優先 ***	666（54.0）	547（44.3）	461（43.0）	577（53.8）
母親の行動	子どもに対してしつけや導きが必要	1161（94.1）	58（4.7）	1007（93.9）	32（3.0）
	子どもとの接触は乳児期から必要	1200（97.2）	19（1.5）	1025（95.6）	19（1.8）
	いざという時頼りになればよい ***	368（29.8）	807（65.4）	171（16.0）	794（74.1）
	乳幼児期には子どもの都合を優先	919（74.5）	284（23.0）	817（76.2）	208（19.4）
	家計を支えることで育児に参加 ***	420（34.0）	780（63.2）	269（25.1）	741（69.1）
	仕事が育児や家事より優先 ***	100（8.1）	1120（90.8）	53（4.9）	997（93.0）

*** $p < 0.005$　　注）「不明者数」は省略

表2　男女の役割分担・自己の性別の受入れに対する男女別意識

N（%）

	男　子（1234名）		女　子（1072名）	
	賛成・はい	反対・いいえ	賛成・はい	反対・いいえ
母親は専業主婦が望ましい	1070（86.7）	103（8.7）	950（88.6）	88（8.2）
女性の天職は子どもを産むこと	861（69.8）	349（28.3）	736（68.7）	308（28.7）
母親の仕事のため育児休暇や保育施設の整備が必要 ***	1042（84.4）	181（14.7）	963（89.8）	83（7.7）
男女雇用機会均等法の実効を ***	979（79.3）	227（18.4）	941（87.8）	84（7.8）
フェミニズム運動の推進が必要 ***	734（59.5）	460（37.3）	830（77.4）	184（17.2）
男女の役割は従来通りがよい ***	646（52.4）	527（42.7）	401（37.4）	577（53.8）
父親にも産休や育児休暇が当然	632（51.2）	577（46.8）	572（53.4）	453（42.3）
科学の進歩で男もお産を ***	33（2.7）	1192（96.6）	161（15.0）	897（83.7）
自分の性別に満足している ***	1179（95.5）	35（2.8）	894（83.4）	128（11.9）

*** $p < 0.005$　　注）「不明者数」は省略

表3　男女の役割分担と他の意見との関係

N（%）

男女の役割分担		男子		女子	
		従来通り	共働きなど	従来通り	共働きなど
母親は専業主婦が望ましい MF***	賛成	592（96.7）	426（84.7）	382（97.7）	481（85.0）
	反対	20（3.3）	77（15.3）	9（2.3）	85（15.0）
女性の天職は子どもを産むこと MF***	賛成	473（74.8）	350（67.3）	309（79.2）	366（64.7）
	反対	159（25.2）	170（32.7）	81（20.8）	200（35.3）
自分の血をひいたこどもがほしい MF***	はい	565（92.9）	428（84.8）	384（98.2）	516（94.5）
	いいえ	43（7.1）	77（15.2）	7（1.8）	30（5.5）
母親の仕事のため育児休暇や保育施設の整備が必要 MF***	賛成	526（82.3）	459（89.0）	345（88.5）	535（94.4）
	反対	113（17.7）	57（11.0）	45（11.5）	32（5.6）
将来，自分の子どもの乳幼児期の保育は M** F***	保育園	143（23.8）	147（31.1）	57（15.2）	147（28.6）
	幼稚園	457（76.2）	326（68.9）	319（84.8）	367（71.4）
男の子を家事がこなせるように育てる F***	賛成	402（69.2）	363（75.3）	215（61.8）	443（84.5）
	反対	179（30.8）	119（24.7）	133（38.2）	81（15.5）
女の子を人前で自分の意見が言えるように育てる	賛成	587（95.5）	485（95.1）	383（98.5）	561（99.8）
	反対	28（4.6）	25（4.9）	6（1.5）	1（0.2）
女の子を自立できる職業を持てるように育てる MF***	賛成	341（65.1）	354（80.5）	234（80.1）	472（94.8）
	反対	183（34.9）	86（19.5）	58（19.9）	26（5.2）
家庭で「男らしく女らしく」と育てられた	はい	258（40.2）	192（36.6）	160（40.6）	256（44.8）
	いいえ	383（59.8）	332（63.4）	234（59.4）	315（55.2）

M；男子　F；女子　** $p<0.01$　*** $p<0.005$

た8割以上の者が「母親が働き続けるために育児休暇や保育施設などがもっと整備される必要がある」といっているが，「将来自分の子どもの保育は，保育園よりも幼稚園を利用する」と答えている者も多いのである。つまり，現状では，従来の役割分担を否定し共働きをしようとする者でも，保育園を利用するという者は，男子31.1%，女子28.6%と少ない。

将来の子どもの育て方について，「女の子を人前で自分の意見が言えるように育てる」については両群の男女とも賛成者が多く有意差はない。「男の子を一通りの家事がこなせるように育てる」は，両群の男女とも賛成者が多いが，反対者の中で最も多いのは，従来どおりの役割分担をよしとする女子の38.5%で，最も少ないのは従来どおりをよしとしない女子の15.5%であった。「女の子を将来自立できる職業を持てるように育てる。」についても，両群の男女とも賛成者が多いが，反対者の中で最も多いのは，従来どおりの役割分担をよしとする男子の34.9%で，最も少ないのは従来どおりをよしとしない女子の5.2%であった。つまり，男の子の育て方について保守的なのは保守的な考え方の女子に多く，女の子の育て方について保守的なのは保守的考え方の男子に多いということになる。しかし，男女の役割分担について保守的な考え方をする者の多くは，子どもを保守的に育てようとは思っていないのである。

どのような男女の役割分担がよいかについて，それぞれに答えていても，他の回答にそのまま反映されているとは限らない。つまり，答え方にはっきりとした一貫性がみられなかったということである。

Ⅲ　まとめ

現在の大学生は男女とも「母親は専業主婦が望ましく，女性の天職は子どもを産むこと」と思っているものが多いが，一方では女子学生は女性の社会進出を望み，男子学生はこれを認めるような回答もかなり見られた。

従って母親的行動，父親的行動については，男女それぞれの従来からの役割を肯定しながらも，相手には変化を求めている結果になったのであろう。

回答に一貫性のなかったことも，従来の男女の役割に変化がおきつつある時代を繁栄していると思われた。